

## 安国殿

祈願所である安国殿は、徳川時代（1603-1867）の初代将軍徳川家康（1543-1616）と密接な繋がりがあります。ここには黒本尊（Black Buddha）が安置されています。この阿弥陀如来をかたどった彫像は金箔で覆われていましたが、過去数百年の間にお香の煙によって黒く変色しました。家康はこの像が彼に加護を与え、天下統一を果たすための戦で勝利をもたらしたと信じ、この像を深く崇敬していました。百年以上にわたる乱世を終わらせ、1603年の徳川幕府創設を可能にした1600年の関ヶ原の戦いにも、家康はこの像を持っていました。

黒本尊は普段は見ることはできませんが、参拝者はそれでもここを訪れて幸運と厄除けを祈願します。この仏像は年に3回のみ、それぞれ1月、5月、9月の15日に一般公開されます。

黒本尊の左側には家康の肖像があり、その前には数多くの徳川家の位牌が置かれています。等身大のブロンズ像は皇女和宮（1846-1877）の姿をかたどったものです。江戸幕府の終わりごろ、皇女和宮は、幕府と朝廷の関係悪化を緩和するため、14代将軍家茂（1846-1866）と結婚させられました。この結婚の甲斐なく、両者の対立は解決されず、幕府は朝廷の支持を失いました。夫の早逝後出家した和宮は、今日、当時の政争に巻き込まれた悲劇の皇女とされています。